

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0790300446		
法人名	社会福祉法人 心愛会		
事業所名	ハ一モ二一湖南		
所在地	福島県郡山市湖南町三代字寺ノ前290		
自己評価作成日	令和3年12月3日	評価結果市町村受理日	令和4年4月1日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先 <http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/07/index.php>

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	NPO法人福島県福祉サービス振興会
所在地	〒960-8253 福島県福島市泉字堀ノ内15番地の3
訪問調査日	令和4年1月12日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

お客様のできること、尊厳を大切にしながら、自立に向けた意欲を引き出していただける支援を心がけています。お客様の思い、ご家族の思いを大切に、相談しやすい馴染みの関係を築き、柔軟且つ継続した支援を心がけています。

地域密着を意識し、事業所の催し等を通して地域の方に来て頂く、お客様も積極的に地域に出向き、地域社会との関わりを持つ機会を多く持って頂ける等に努めております。

お客様にとって居心地の良い生活、常に安心して暮らして頂けるような環境、関係作りにも努めております。お客様一人ひとりの個性を尊重し、個々人に応じた支援を心がけています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

1. 事業所では利用者の希望に合わせて、感染対策を取りながら、少人数で外食や名所地に出かけており、利用者が落ち着いて、ゆったりと自分のペースで生活している。

2. 地域との関わりを大切に、清掃・盆踊り・花植等の地域行事へ積極的に利用者と参加していた。事業所は、廃校となった学校を利用しており、体育館を地域へ開放したり、事業所行事に地域住民が参加しやすいよう工夫し、利用者が地域との交流が持てるよう支援していた。現在、コロナ禍で出来ない事もあるが、感染対策を取りながら、出来るだけ継続している。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当する項目に○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。〕

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価		
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
I.理念に基づく運営						
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	私たちは、お客様の喜びを共に共感し合える仕事をします。私たちは、お互いを支え合い思いやりを持って仕事をします。私たちは、「やってみっぺ」の精神で地域に貢献します。という事業所理念として掲げ掲示し、職員が意識できるようにし、実践につなげている。	地域密着型サービスの意義を反映した事業所理念を事業所内に掲示し、申し送り時に唱和しながら職員間で共有し、実践に繋げている。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	コロナ禍のため、行事を企画することは出来ないが、地域主催の清掃活動や花植え等にお客様と一緒に参加している。	町内会に加入し、地域行事に利用者と参加し、廃校の校舎を利用した事業所の体育館を地域開放したり、小学生の地域探索授業等への協力もしていた。現在、コロナ禍であるが、花植と清掃活動に利用者と参加を続けたり、交流が途切れないように利用者が縫った雑巾を地域の学校へ届けている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	コロナ禍でセミナーを開く事は出来ないが、学校へ雑巾を寄付しようとお客様に縫っていただくなど、少しずつ出来ることを行っている。			
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、事業所の取組内容や具体的な改善課題がある場合にはその課題について話し合い、会議メンバーから率直な意見をもらい、それをサービス向上に活かしている	コロナ禍のため、運営推進会議は開催出来ていないが、メンバーから意見をいただくなどしている。	運営推進会議は定期的に開催し、事業所から現況・活動・事故等の報告をし、委員から意見を頂き、サービスの向上に活かしている。現在は、コロナ禍にあり書面開催となっている。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	介護相談員の方には感染予防の観点からして来て頂けていないが、電話や手紙で意見をいただいている。又、行政に直接出向き、介護認定の更新手続きや、紙面にて入退居の状況を報告している。	行政担当者には、介護保険の認定更新手続きや事故・入退去の報告をしたり、不明点等の問い合わせをし、事業所の実情を伝え協力関係が築けるよう取り組んでいる。また、認定更新時の調査結果を行政からもらい、利用者支援に活かしている。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	事業所にて身体拘束の勉強会を実施し、知識を得ている。身体拘束廃止委員会を毎月開催し、日々の業務の中でも身体拘束がおこなわれていないか検討している。	身体拘束廃止委員会は3カ月に1回以上開催しており、職員は「不適切ケアチェックリスト」を基に振り返り、身体拘束をしないケアに努めている。また、職員は事業所内研修等により、身体拘束による弊害の理解を深めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	職員会議や施設内研修などで教育システムを活用しながら職員の指導に努めている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	権利擁護についての勉強会等を行い、必要になったお客様へ支援できるように備えている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約前にご本人やご家族に対し、重要事項説明を十分行って不安なく利用していただけるよう努めている。又、利用料金改定等の際には、書面による詳しい説明により納得いただいている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会時やご利用時に意見や要望をお聞きしたりしている。また、玄関にご意見箱も設置しており、それらを運営に反映させている。	日頃のケアの中で、利用者の思いや意向の把握に努め、家族からは家族来訪時や電話連絡時等に意見や要望を聞き、出された意見や要望を運営に反映させている。利用者の要望である外出は感染対策を取りながら実施している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	申し送り時や職員会議時に職員の意見や提案を聞く機会を設けている。	職員会議や日常の業務の中で管理者は職員の意見を聞き取っている。また、個人面談や目標管理の個別面接を通して職員の意見や希望を把握し、事業所や法人で検討し、採り入れている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員の資格取得に向けた支援をおこない、資格取得後も資格を十分に活かせるような環境作りを行っている。個々の目標管理シートを基に面談・評価を行い、昇格制度があり、職員が意欲を持って働けるよう努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	事業所内での勉強会の開催や、法人内で研修が予定されており、職員が研修を受講できる機会がある。外部研修に関しては、職員に受けてみたい研修内容のアンケートを取り、研修に参加できるような環境を作っている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	職員の積極的な研修参加を支援している。研修等を通して交流をおこなうことで事業所のサービスの質の向上に努めている。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	お客様の要望や不安に思うことが話しやすいような対応を心がけている。安心してサービスを受けていただけるよう、説明を十分に言い、信頼関係を築くように努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族の困っていることや不安なこと、要望等に耳を傾け、安心してもらい信頼関係が築けるように努めて、サービスに反映するように努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	アセスメントを通してご本人やご家族のニーズを把握し、今何が必要なのか、話し合いながら、ご本人の意向に沿ったサービス提供に努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	家事や催しを行う際の準備など、ご本人ができることはできる範囲でしていただき一人一人が役割を持って生活できるような関係を築けるように支援している。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	お客様、ご家族と日頃から積極的にコミュニケーションを図り、近況報告しながら共に支える関係を築くよう努めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	コロナ禍のため、面会は制限させていただいているが、窓越しや電話を使ってコミュニケーションが取れるよう配慮している。	利用者がこれまで築いてきた人間関係や社会とのつながりを継続できるよう支援している。現在、コロナ禍のため、パーテーション越し面会等を実施し、利用者の不安を解消し馴染みの関係の継続に努めている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	同じ話題や趣味の話を職員が間に入って入居者様同士がうまくかわりあえるように配慮している。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入院等で退去された後も、その後の様子を伺ったり、退去後も困った事があれば相談できることを伝え、関係を続けていけるよう努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	計画見直し時や、日頃の会話時に要望などを伺いプランに反映できるように努めている。 ご本人から確認が出来ない場合はご家族からご本人の思いを代弁して頂いたりし、ご本人の立場に立ち検討している。	毎日のケアの中で利用者の思いや意向を把握し、家族の意見や意向も確認している。また、日常生活の中での表情・行動や仕草から推測して汲み取り、利用者本位の支援となるよう検討している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人や家族から話を聞き、生活歴や趣味など馴染みの暮らしができるよう観察、把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	画一的ではなく、一人ひとりの生活リズムに合わせた支援を行なっている。本人の小さな変化にも気付くことができるよう注意して観察し、情報を共有している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	定期的にケアカンファレンスを行い、3ヶ月に1回モニタリングを行っている。 又、3ヶ月毎や変化に応じ、ご本人、ご家族の意向を把握しながら現状に応じた介護計画を作成するよう努めている。	利用者・家族の意向、利用者の身体状況をもとに作成した介護計画の援助内容に即した支援を行っている。サービス担当者会議では、日常的な利用者の変化や課題を出し合い対応策を検討しているが、日常生活記録に援助内容の実施ごとの記録がない場合が見られた。	日常生活記録には介護計画の援助内容の実施状況を記録し、記録を基にモニタリングし、ケアに反映させることが重要である。そのため職員は、介護計画を理解し、個別記録を適切に残して欲しい。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々のケア内容、計画に基づいた取り組みや結果など個別の日常生活記録に記入し、職員間で情報の共有が出来るように活かしている。又、カンファレンスでの情報交換を元に次回の計画見直しの検討課題に反映できるように取り組んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人や家族の状況に応じて、訪問診療や訪問理容を受け入れている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の町内会に属し、回覧板などで情報を共有している。また地域の活動に参加をし、ご本人にとって楽しみのある、役割の持てる生活を維持できるように支援している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご本人やご家族の希望によってかかりつけ医を選択して頂き、家族対応で受診をしている。通院時はご家族に事前に生活状況等、必要な情報提供をしている。	家族対応によるかかりつけ医への継続通院を基本として、入居時に説明し理解を得ている。車椅子使用等、家族対応の通院が困難な場合は協力医が毎月1～2回往診をしている。通院時は家族を通して口頭で主治医との情報伝達を行い、結果は送りノートにより職員間の情報共有を図っている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	施設内での状態の変化を看護師が把握し、医療機関に相談、家族への報告など迅速に適切な医療が受けられる体制をとっている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時は利用者様の具体的な情報を提供している。入院中も状態把握に努め、退院後の支援方法についても情報交換を行っている。又、退院時は退院前カンファレンスに出席し、今後のケアが安心して行えるように取り組んでいる。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	アセスメントの際に急変時の対応などをご家族に確認している。また、対応できることとできないことをその都度説明し、ご家族にご理解をいただき重度化をむかえた場合の相談支援をおこなっている。	事業所では医療連携体制加算を取っていないが、利用者・家族の希望に沿って看取り支援を行っている。食事が取れなくなる等の状態が悪化した場合、医師からの説明に併せ「看取り介護に関する指針」により事業所ができる対応を説明し、家族の同意を得て看取り支援を行っている。職員は毎年研修を受け、隣接の同法人の小規模多機能型居宅介護の看護師と協力して看取りに当たっている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	法人の緊急時対応マニュアルが作成されており、常に職員が確認できるようにしている。又、定期的に講習会を行い訓練を実施している。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	火災や地震、日中及び夜間想定等の避難訓練を実施し、お客様が安全に避難できるようにしている。	利用者も参加して火災・土砂崩れ・大雪等を想定した訓練を年に3回実施し、また消防署から借りたDVDによる学習や連絡網の確認訓練等、机上の訓練を3回実施している。米・カップラーメン・水・コンロ・ストーブ・防寒シート等を備蓄し、非常災害に備えている。運営推進会議の委員や近隣住民の避難訓練への参加は実現していない。	年間計画を立て、夜間を含めた様々な想定の実践を実施しているが、運営推進会議の委員や近隣住民の参加は得られていない。コロナ収束後は委員の参加を計画し、さらに地域住民への働きかけを行う等、地域との協力体制の構築に向けた取り組みが望まれる。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	人格を尊重し、個々に合わせた対応をし、言葉遣いにも配慮している。又、声かけの仕方や場所等、プライバシーを配慮した対応も心がけている。	介助される利用者のプライバシーに配慮して、排泄介助時に職員間では「パット」を「青い物」等と隠語で話すようにしている。トイレ誘導では周囲に聞こえないように小声で話す、トイレのドアは閉める、オムツ交換は居室で行い必ずドアとカーテンを閉める等、プライバシーに配慮した基本的なケアの徹底に努めている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日頃のコミュニケーションの中で希望や思いを把握するように努めている。要望・思いを表された時など、ご本人が自分で決定できる場面を提供している。 自ら思いを伝えることが難しい方については、生活歴や嗜好等を把握し、希望に沿えるように努力している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一日の大まかな流れはあるが、お客様一人ひとりのペースに合わせ生活できるように支援している。希望があれば、可能な限り意向に沿えるよう努めている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	毎日、起床時は顔タオルや整髪をしていただいている。服装はご自身で好みの着替えを用意していただくようにしており、難しい方は似合いそうな服を選んで、本人に確認していただいている。髪の毛が伸びてきた人には、訪問理容店に出張でカットをしていただいている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事に関連した作業を利用者とともに職員が行い、一緒に食事を味わいながら利用者にとって食事が楽しいものになるような支援を行っている	お客様の負担にならない程度におしぼりをたたんで頂いたり、食器を洗って頂いたりしている。季節感のある献立や外食を取り入れ、咀嚼・嚥下が困難な方には形状などを工夫するなどして美味しく食べて頂けるように支援している。	献立は法人の栄養士が作成し、毎日法人から翌日分の下調理をした食材が真空パックで配送され職員が調理している。事業所でご飯とみそ汁を作り、直接取り寄せた食材で調理した料理を追加している。また、2ヶ月に1回利用者の希望に沿った特別メニューを提供し、おやつ作りの調理レクや海鮮バイキングを行い、さらに感染対策を講じ外食に出かけて楽しんでもらっている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量、水分量をチェックし、足りない時は栄養補助食品の提供や本人の嗜好に合った物を提供するなど、必要な支援を行なっている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の口腔ケアをご本人の能力をみながら声掛け、介助をおこない、口腔内の清潔保持に努めている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表により、個人の排泄パターンを把握し、時間で声掛け誘導をしたり、ご本人訴え時にトイレで排泄できるように支援を行っている。又、ご本人の状態に合わせ、見守りや一部介助を行っている。	トイレで排泄できるように支援することを基本としている。排泄チェック表により一人ひとりの利用者の排泄パターンを把握し、利用者ごとに適宜、声掛けを行いトイレへ誘導している。夜間でも、できるだけリハパンを使用するようにしてトイレ誘導を行い、排泄自立に向けた支援に取り組んでいる。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎日、体操を行うなど体を動かす機会を作ったり、一日を通して効率よく水分を摂って頂くようにしている。又、数日排便が見られないような方には、必要に応じてセンナ茶やオリゴ糖を提供したりしている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	曜日を設定し、入浴している。お客様の入浴拒否があったり、体調不良の際など、その日・時間に出来ない場合はその都度対応している。又、季節により、菖蒲湯などを使用してより気持ち良い入浴をして頂く工夫をしている。	入浴は、原則週2回とし、利用者ごとに曜日を決めている。夏期には、利用者によっては皮膚の状態等から週3回の入浴にしている。午前中の中の入浴としているが、利用者の希望で午後にするなど柔軟に対応している。入浴剤は使用していないが、ゆずや菖蒲を入れて楽しんでもらっている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	生活習慣、体調や状況により、休息できるよう支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	内服薬について効能や副作用など処方箋を確認し、理解するよう努めている。薬の変更時は状態の観察を行なっている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	お客様がこれまで行なってきたことや得意なこと、趣味などを把握し、読書や家事、畑作業など個々に応じた支援をしている。生活の中で役割を持って生き生きと暮らしていただけるよう、職員や他のお客様と一緒に洗濯たたみや食器洗いなどを行なっている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	日常で散歩など体調にあわせて支援を行っている。年間行事計画をもとに、季節の花を見に出かけたり紅葉狩りや外食など、楽しみをもった生活が出来るよう支援している。	冬期間は、積雪が多く寒冷地域であるため外出は困難である。冬季以外の天気の良い日は、散歩や事業所前の花壇で外気浴を行う等、できるだけ外に出かけるように努めている。コロナ禍においても、感染防止を図りながら、日を分けて少人数で車に乗り、人のいない場所を探して花見・紅葉狩り・ドライブ・外食等に出かけている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	現在、個人でお金を所持している方はいない。 職員と一緒に外食や季節の花見等に出かけた際は、金銭は立て替えて、食事や嗜好品を食べたりしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	お客様より要望があれば、その都度対応している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	室温の調節、照明、音楽やテレビの音量調整快適になるように調整している。また季節ごとの飾りつけを取り入れるなど、くつろげるように配慮している。	リビングの壁面には、季節に応じて利用者が作成したぬり絵・習字・ぬり絵を貼り合わせた壁画やお花紙を繋げて作った作品を飾っている。また、ソファを置き、隣接の小規模多機能型居宅介護との間にある畳敷のスペースに炬燵を配置して、利用者それぞれが好みの場所でくつろげるように配慮している。炬燵等は、利用者の昼寝や休憩の場所になっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共用スペースではテーブルの配置を工夫し、多人数で賑やかに過ごせる場所や少人数で静かにくつろげるような場所づくりをおこないお客様の居心地にあわせた使い分けをしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室、或いは泊まりの部屋は、プライバシーを大切にし本人や家族と相談しながら、居心地よく、安心して過ごせる環境整備の配慮がされている(グループホームの場合)利用者一人ひとりの居室について、馴染みの物を活かしてその人らしく暮らせる部屋となるよう配慮されている	ご家族の写真や、お客様の使い慣れた物を持ってきていただき、落ち着ける環境を整えられるように、ご家族様に協力をいただいている。	居室にはベッドとエアコンが備えつけられている。利用者は、壁面に家族写真や自分の作品を飾り、タンス・テレビ・椅子・位牌等を持ち込み、家族と相談して、その人らしい居室づくりを行っている。職員は、必要に応じてエアコンが就寝中の利用者に直接当たらない位置や動線を考えた家具の配置等を助言し、快適で安全な生活を支援している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	目の不自由な方には、電気のスイッチやドア、動線上に蓄光テープを張って安全の確保や、ご自分でスイッチを押せるようにするなど工夫をしている。		